

## 〔歴史〕

あだたらは  
さまざまな歴史と  
人間のドラマを  
やさしく見つめてきた



抱付観音

馬頭観世音が安置されていたが、後年伊達氏が持ち去ったが一夜のうちに岩谷に御影が刻みこまれたという不思議な観音様。



わにくち  
高木寺の鱧口

鱧口とは、社寺の堂の軒にかけ綱で打ち鳴らす道具のこと。この鱧口は直径18センチの青銅製で、1524年、大和秀次の作。



日輪寺の枝垂桜

エドヒガンの枝垂れで、幹は東北に相対している双樹の桜。四月上旬～中旬にかけて淡紅色の花をつける。



小屋館山の五葉松

岩根の街並を見おろす苗代田神社の境内にあり、樹齢200年といわれている。



天王壇古墳(築造年代:5世紀後半頃)

この付近は多くの古墳があった所で、七ツ坦とも言われていたが、現在は天王壇を含め四つの古墳が残っている。



人取橋合戦跡

天正13年(1585)11月17日、常陸の佐竹をはじめ会津の芦名ほかの連合軍と伊達政宗が、東北の覇を争う激戦を展開したところ。

永年にわたる本宮の歴史を物語る史跡が、まだ数多く残されています。本宮の名の起りにもなった安達太良神社。源義家伝説のある岩井の清水。そして強者どもが夢のあとのごとく、戦国武将たちが命をかけて戦った合戦跡など…。そこにたたずみ、歴史を振りかえるたびに、先人たちの人間ドラマが伝わってきます。



「奥州街道本宮なくば、  
何をたよりに奥がよい。」

江戸人形浄瑠璃(碁太平記白石断)より